

ぶうげんびりあ4月

2023年 4月号 №286

<https://ainohamajiaikai-k.or.jp/>

編集・発行 障害者支援施設 愛の浜園

奄美市名瀬大字知名瀬2504

TEL:54-8011 FAX:54-8012

No.1



WBC（ワールドベースボールクラシック）での日本の優勝は、日本中を熱狂させました。二刀流の大谷選手の活躍は語り継がれることでしょう。また、今永昇太投手は、奄美市でキャンプ調整しており、少しでもWBCに関わりがあったことを誇らしく思います。

新年度がスタートしました。3月は別れの季節、4月は出会いの季節といわれますが、異動などもあり落ち着かない時期でもあります。

さて、3月13日からマスク着用が自己判断となり、5月にはコロナ感染症の位置づけもインフルエンザと同じ5類感染症になりますが、特効薬ができたわけでも、流行が終息したわけでもありません。厚生労働省からも、利用者の重度化が心配される施設では、マスク着用が推奨されておりますので、本園においても職員は業務中や人混みなどではマスク着用を行い、これまでどおり感染防止に努めたいと思います。今年度は、公用車の入れ替えやスプリンクラーの設置など、グループホーム建設以外にも、様々な設備更新を予定しております。ご利用者の安全性と利便性が高めて、満足いただけるサービス提供に努めてまいります。

これからは、ご家族の皆様とふれあいの機会が増え、ご利用者の外出など楽しみが増えて、笑顔があふれる新年度になればと期待しております。今年度も、皆様の変わらぬご厚情をよろしくお願い申し上げます。（施設長：奥田）



行事予定表

- 3日(月): 乳がん検診
- 4日(火): 身体・血圧測定
- 13日(木): 避難訓練
- 19日(水): 健康相談
- 20日(木): 旧桃の節句
(生活介護)
- 22日(土): 旧桃の節句
(就労B)
- 25日(火): 音楽の日
- 28日(金): 誕生会

～各事業所から新年度のご挨拶～

【施設入所・生活介護事業所】

1月より、サービス管理責任者になりました大田あずさと申します。昨年度もコロナに翻弄される一年になり、活動や行事なども感染状況を確認しながらの取り組みとなりました。今年度も引き続き、感染予防に努めながら活動を進めていきたいと思ひます。施設入所支援では、ご本人とご家族のニーズに沿って個別支援計画を立て、健康面や余暇の充実、スキルアップ支援など一人ひとりに合った日常生活全般の支援を行います。生活介護事業では、班別活動やクラブ活動、ボランティア活動の他にも外部講師を招いての音楽活動やヘルスタイムなど変化をつけながら楽しめる活動や行事を提供します。今年度も利用者の皆さんに満足していただけるように工夫しながら取り組み、たくさんの笑顔を『ぶうげんびりあ』で紹介できたらと思ひます。

(サービス管理責任者：大田)

【グループホーム事業所フレンド】

グループホームフレンドでは日常生活の支援について、世話人、支援員、各事業所間の職員との連携を図りながら、個別支援計画に沿って支援します。毎日の健康チェック（血圧測定、検温、体調確認）をしながら、定期薬の服薬確認、月1回の健康相談で医師への相談をしています。平均年齢が57.4歳、65歳を過ぎている方が半数を超え、高齢化が進んでいる現状ですが、グループホームを住まいの場とし、いつまでも元気に過ごしていただけるよう健康管理に努めていきたいと思ひます。

余暇支援では本人の興味ある事を模索しながら、楽しめる余暇を提供し、充実した時間が過ごせる様に支援します。コロナ感染症の状況にもよりますが、ドライブや買い物、外食の計画を立て、気分転換を図りたいと思ひます。昨年好評だった一泊旅行も計画したいと思ひます。令和5年度の各ホーム担当はフレンド1が恵世話人、太倉支援員、フレンド2が屋世話人、佐々木支援員、フレンド3が保枝世話人、西田支援員、フレンド4が伊東世話人、支援員は福山になります。1年間、よろしくお願ひいたします。

(サービス管理責任者：福山)



用 得美さん



中江 公三さん

【就労継続支援B型事業所】

生産活動を通じて、その知識及び能力の向上に必要な訓練、ストックヤード事業、奄美市からの港公園清掃事業、衛生組合からのなど委託事業、大島紬織り、季節の飾り物クラフト、紬織り、小物作成と販売、手拭きタオルの洗濯や陶芸作業。利用者個々のニーズにあった作業を見つけ、その中で、作業の知識や能力向上、生活のリズムの安定を目的とした支援提供をしていきます。皆で楽しく、明るく元気にスタートし、一年間取り組んでいきたいと思ひます。

(サービス管理責任者：市田)

【相談支援事業所ていだ】

令和5年度もていだは、契約者の困り事に即座に対応できるように、連携を取りながら支援をしていきたいと思ひます。これまで大人のケースに多く関わってきましたが、少しずつ児童のケースも持たせて頂いており、利用者さん、ご家族の相談も多岐に渡っています。ひとつひとつの相談に丁寧に対応し、「相談してよかった。ていだよかった。」と思ってもらえるように努力していきたいと思ひます。また、利用者さんが関わっている事業所との連携も大切にし、チームとなって利用者さんのニーズの為に計画を立て取り組んで参りたいと思ひます。

(相談支援専門員：富田)

